

# 性産業従事者らが選挙運動員・候補者となった参院選2022

かなめ  
要友紀子

(SWASH代表)

私は1999年から性産業で働く人々の健康と安全に関する課題解決に取り組みグループSWASHで活動し、長年、性産業で働く人々の人権擁護活動に携わってきました。

今回の参院選で私は、セックスワークに対する職業差別をなくし、労働環境を改善するための法整備や法改正の選挙公約を掲げ、立憲民主党から立候補しました。私の選挙は、3つの点において画期的な選挙でした。

## 性産業業界へ ドブ板選挙運動

1つは、性風俗店やAV業界へドブ板選挙運動をしたことです。これまでSWASHの活動で性感染症予防啓発等のためのアウトリーチ活動で風俗街をまわることはありませんでしたが、セックスワーク／



ワーカー差別をなくすための政治意識の喚起や、政治参加の啓発のために風俗街をまわったことはありませんでした。私が一番やりたかったのはまさに後者で、現場の人々に会いに行き、政治に変えてほしいこと、してほしいこと、法律に関する困り事を聞いて、それを選挙公約として訴え、性産業で働く人々が有権者として、投票に行こうと思える選挙をやることでした。この、「当事者の声を政治に届ける」ということがないと、いくら現場の取り組みを頑張っても、法律の問題や

政治の不作為による限界があるからです。

このドブ板選挙を全国13カ所（吉原、歌舞伎町、関内、兎我野町、堂山、京都、金津園、雄琴、栄町、中州、熊本、那覇、すすきの）の風俗街ですることができました。

2つ目は、選挙運動員も候補者もみんな性産業の元従事者、または性に関わる仕事をする当事者たちだったことです。そして、彼女たちは選挙や投票に興味を持ったことがない人がほとんどでした。しかし、私が性産業に関する選挙公約、特にAV新法や売春防止法等の見直しに関して、当事者の声の反映、政策立案過程への当事者参画を掲げたことに共感してくれたことが、今回の選挙運動に協力してくれる動機づけとなりました。

3つ目は、性産業で働くセックスワーカーたちや、AV業界で働くセクシー女優さんたちが、私への投票を呼びかけてくれたり、期日前投票したことをSNS等で発信してくれました。さらには、性風俗店の利用客向けに風俗嬢が書くブログ「写メ日記」でも、私の宣伝をしてくれた風



要友紀子さんが選挙に使用した画像

俗嬢たちがいたり、セクシー女優さんのYouTubeに出演させてもらったり、AVメーカー等のサイトが私のバナーを貼ってくれるなど、私の選挙におけるありとあらゆるパブリシティが画期的なものとなりました。

## 選挙へのハードルの高さを知る

こうした新しい風を吹かすことができた選挙でしたが、結果は残念ながら落選しました。しかし、私は立候補して本当によかったと思っています。なにより、当事者からの反響がとてよかったですから働いたこと隠さずに選挙に出るなんてすごい」「かつこいい」「初めて投票に行く」と言ってくれて、驚く顔や笑顔の数々をみるのができました。「勇気をもらった」「応援

しています」「初めて光を当ててくれた」「投票したいと思えた候補者は初めて」という趣旨のメールや返信ツイートも、いまだに追い切れないくらい頂きました。その中には、「自分も政治家になりたい」という風俗嬢からのメールもありました。

他方、「自分たちが応援したら迷惑をかけるのではないか」という現場の声を写メ日記で紹介して下さった方がいて、被差別の属性の自分たちが選挙に関わったり言及してはいけないのではないかと、思ってしまうくらい、差別が根深いことを改めて痛感しました。また、投票日に、「要候補に入りたいが、投票用紙に何て書けばいいか？」と問い合わせる当事者の方々もいました。投票用紙を見たことがないために具体的に正確にイメージすることができず、候補者の名前以外に何か応援メッセージのようなものを書くのかと考えたようでした。この選挙をしないとわからないかなった、選挙や投票のハードルの高さです。新しく取り組む課題にして、次のチャンスに向け、準備していきます。